

ふきのとう 文庫だより

昭和48年1月13日第三種郵便物承認

HSK通巻番号608号

発行 令和4年11月10日

毎月10日発行 一部100円

編集 〒060-0006

札幌市中央区北6条西12丁目8番3

公益財団法人ふきのとう文庫

電話 (011) 222-4839

FAX (011) 222-4800

発行人 北海道障害者団体定期刊行物協会

細川久美子

瀬田貞二とふきのとう文庫

瀬田貞二「存じの方も大勢いらつしやると思いますが、皆さんはどの本が最初の一冊でしたか？私は絵本の『三びきのやぎのらがらどん』だった気がします。」

はじめに彼の略歴から紹介します。

一九一六（大正）東京本郷に生まれる

一九四一（昭和十六）東京帝国大学文学部国文学科卒

一九四九（昭和二十四）平凡社入社「児童百科事典」全

二十四巻の企画編集に携わる（昭三十二）退社

一九六六（昭四十一）「ホビットの冒険」の訳で産経児童

出版文化賞受賞

一九六七（昭四十二）「ナルニア国ものがたり」の訳で同

賞受賞

一九七七（昭五十二）「指輪物語」の訳で児童福祉文化賞

奨励賞受賞

一九七九（昭五十四）没 享年六十三歳

一九八二（昭五十七）「落穂ひろい」で日本児童文学学会

賞受賞、など児童文化史に足跡を残しました。

「ナルニア国ものがたり」も「指輪物語」も七巻の大作

です。これらは映画化され、瀬田の名前は知らなくても映

画をご存じの方もいらつしやるのではないのでしょうか。

このような、いわゆる「ゆきて帰りしものがたり」とい

われるファンタジー文学のほか彼の絵本の訳についても記

されなければならぬでしょう。

「三びきのこぶた」「おかみと七びきのこやぎ」「アン

ガスとあひる」「おだんごばん」「げんきなマドレーヌ」「よ

あけ」「チムとゆうかなせんちようさん」「三びきのやぎ

のらがらどん」などなど全部は紹介しきれません。

日本の昔話では「ねずみじょうど」「かきじょう」があ

ります。「かきじょう」は貧乏な老夫婦がいて、じいさん

が正月の餅を買いにまちにかさを売りに行くが売れず、帰

り道、寒そうなじぞうさまをみて、『あやあ、むごいこと

だなあ。はだかでゆきかぶつてさぞつめたかろう』と売り

物のかさをかぶせるがひとつたりない。そこで自分がか

ぶつていたかさをぬいでかぶせ、うちへかえってばあさん

と「すっぽりめし」をたべてねてしまふ。

すると正月のあけがた、そりをひく声がある、、、

私はここが何度読んでも好きです。

私ちょっと脱線しますが、この絵を描いた赤羽末吉は「セ

ふきのとう文庫 業務執行理事 杉山一夫

ロ弾きのゴーシュ」を描いた茂田井武にあこがれ、福音館の編集者だった松居直を訪ね、何を描きたいのか訊かれ、「雪国を描いてみたい」と答え、それで松居直は瀬田が再話した「かきじょう」でやってみよう決心します。赤羽五十歳にして絵本画家のスタートでした。

私の好きな四人が、つまり茂田井・赤羽・松居・瀬田が輪になってつながりました。

また晩年まで十年以上、毎週土曜日に自宅を瀬田文庫として開放していたそうです。

さて、ここまで瀬田貞二について記しましたが、私は「指輪物語」を読んでいた時、何気なく瀬田の「あとがき」を読んでもおもしろい「おもしろ」と声が出てしましました。その部分を抜粋して紹介します。

「私は、この物語を実際に読んで、正直なところ、力にあまる大作に畏怖を感じました。しかし評論社の竹下さんの勧誘に乗せられて身のほど知らずの訳出に乗りだしたのは、田中明子さんの全面的な協力が得られたからにほかなりません。また、最初にこの本に引き合わせてくださった北海道の小林静江さんにも、機縁を与えてくださったお礼をのべたいと思います。この三人のおかげなくしては、実現できなかったはずですから」

「ホビットの冒険」も「ナルニア国物語」も岩波書店から出版されていますから、岩波の編集にいたふきのとう文庫前理事長の小林さんとはつながりがあったと推察できますが、「指輪物語」は評論社からです。「勧誘に乗せられ、どういふいきさつがあったのでしょうか。」

小林さんがいなくなった今では尋ねることもできないのが残念です。

しかし、この本が読み継がれ、ここに小林さんの名が残る、北海道の小林さんって誰？と思う方がいて、ふきのとう文庫に興味をもってくれたらいいなと思います。

このあとがきのコピーは、ふきのとう文庫の「指輪物語」の書架のあたりに貼ってくれています。

参考文献

月刊絵本 一九七六年一月号 (株)すばる書房
絵本よもやま話 赤羽末吉 偕成社
この本よんで 二〇一六年夏号 J P I C 他

上半期を終えて

令和三年度よりも二十万円事業予算を下げてスタートした令和四年度の文庫の活動です。文庫だよりも再三お知らせしていますように、安定していない事業の財源に対して、支出の見直しで少し節約した予算計上となりました。

収入は賛助会員の皆さまの支援も一昨年および昨年程度がなんとか見込まれるところですが、寄付金については、想定される寄付者を特定できていないまま過去の実績から予算組みをしているのが現状で、その年度、年度での僥倖に頼っているところなんです。より多くの方々に当文庫の事業について理解し、賛同していただき、更なる寄付金をいただける広報活動にも務めていきたいと思っています。

補助金は、毎年、日本赤十字社北海道支社共同

上半期 収支実績

令和4年度9月末

単位千円

| | 予 算 | 3年9月末 | 前年同月 | 前前年同月 |
|------|-------|-------|-------|-------|
| 収入の部 | | | | |
| 賛助会費 | 2,500 | 1,872 | 1,938 | 2,266 |
| 寄付金等 | 2,000 | 269 | 714 | 1,435 |
| 助成金 | 2,000 | 2,396 | 2,050 | 1,600 |
| 事業収入 | 2,000 | 627 | 236 | 542 |
| 雑収入 | | | | |
| 合 計 | 8,500 | 5,164 | 4,938 | 5,843 |
| 支出の部 | | | | |
| 管理費 | 5,800 | 3,203 | 2,623 | 2,724 |
| 事業費 | 2,700 | 822 | 630 | 1,354 |
| 合 計 | 8,500 | 4,026 | 3,253 | 4,078 |
| 収支差益 | 0 | 1,138 | 1,685 | 1,765 |

募金会からの手厚い支援を頂いております。また、北海道新聞福祉基金からの例年通りの補助もありました。新規では、日本コープ共済、コープさっぽろの二年続きでの補助を受けることが出来ました。また、こくみん共済の方からも寄付金に近い助成金を得ており、現時点において予算以上の助成金額となっています。

今年度下期は全国的なコロナウィルスの感染減少を受けて、活発な事業活動が出来ると考えています。コープさっぽろ「えほんよみきかせ隊」の事業参加もその一つです。それについては、また次号で報告します。財政的には収入の増、支出の縮減を図りながら頑張っています。

◆明日と今日の展示

三年ぶりとなる展示会「ふきのとう子ども図書館は四十歳を迎えました」へ明日へ向けての展示会が八月八日〜十七日に行われました。七十七人の方々が来てくださいました。子ども図書館開設当時の写真には、創設者小林静江さんの若かりし頃がありました。その他写真には懐かしいボランティア活動の様子もあります。最初に出来た「大きな字の本」があり、絵、文章、製本も全て手書きで作られていて、原本と変わらぬ出来栄に驚きます。展示会にしか見られない「布の本」が並べられました。ふきのとう文庫の四十年間の活動が詰まった展示会でした。これから五十周年に向けて「すべての子どもに本の喜びを！」をモットーとして続けていきたいと思います。



☐ 新しい拡大写本できました ☐

🌸 みずとはなんじゃ？

かこ さとし 作 鈴木 まもる 絵

🌸 職員室の日曜日

村上 しいこ 作 田中 六大 絵

🌸 モコモコちゃん家出する

角野 栄子 作 にしかわ おさむ 絵

🌸 そばかすイエシ (全3冊)

ミリヤム・プレスラー 作

🌸 ママがたまごをうんだ！

バベット・コール 作

拡大写本の貸し出しについて

大きな字の本、あります

ふきのとう文庫では郵送での貸し出しをしています。

視力が弱いけれど本が大好きなお子さんや本を読んでもたいいけれどふきのとう子ども図書館に来られない方。子どもから大人まで自宅でゆっくりご覧ください。

※ふきのとう文庫のホームページに貸し出しリストがあります。貸出期間は一ヶ月から対応します。返却時の送料は自己負担となります。詳しくは電話等でふきのとう文庫にお問い合わせください。

「ふきのとう子ども図書館」 界限物語

一、位置

「ふきのとう子ども図書館」は北海道知事認可の公益財団法人ですが、活動の性質上その活動範囲は全国区です。

他方、当図書館に実際に足を運んでくれる利用者の多くは近住の人々であり、地域との結合は深いものがあります。

当図書館は、小林前理事長が苦勞して建てたJR札幌駅から西へ直線で七キロの山間部の建物から、およそ九年前西へ一キロの地点に移転してきました。

ここは市の中心部で図書館が立地するに絶好の場所であり、二十数年前までは、すぐ近くに市の中央図書館が置かれていました。

ただ位置的に便利だというだけでなく、札幌市内でも図書館が立地するにふさわしい背景を当図書館は持っているのです。

二、「博士町」

現在地、札幌市中央区北六条西十二丁目の地は、昔北海道開拓使札幌本府が置かれた地（現在の道庁所在地）の隣の町内、絹の原料供給地として開かれた「桑園地区」にあり、又北海道帝国大学（現在の北海道大学）キャンパスの南側から鉄道線路一本で隣接した所です。従って北海道帝国大学との関係が強く、そのベッドタウン的存在でした。

特に当図書館の周辺は帝国大学の教授が集中して住んでおり、「博士町」（大学村）と呼ばれた一画です。

当図書館のある場所の向三軒両隣は、大正中期

当時全部大学教授の自宅（昭和初期の地図参照）で、一軒当りの地所は千㎡を優に超え、西洋風の応接間、書庫、ペチカやピアノが軒並みにあるという、まさに別天地的界限だったのです。

その応接間では、近隣の大学教授が月一度持ち回りで集まり「茶話会」が長年にわたり開かれて来ました。

更に当図書館北側には、北海道帝国大学本科の学生の受け皿になる寮が（東北地方の殆どの県が独自に設置）軒並みにある学生街でもありました（現在は一般マンション化）。

このように、「ふきのとう子ども図書館」の位置は、札幌市内でも特殊な文化の香り高い場所だったのです。

三、「遠友夜学校」

当時の「博士町」の住人は、錚錚たる人々ばかりですが、当文庫の東隣に現在でも子孫の個人住宅が存在する「半澤洵博士」は、特に当文庫との因念を感じます。

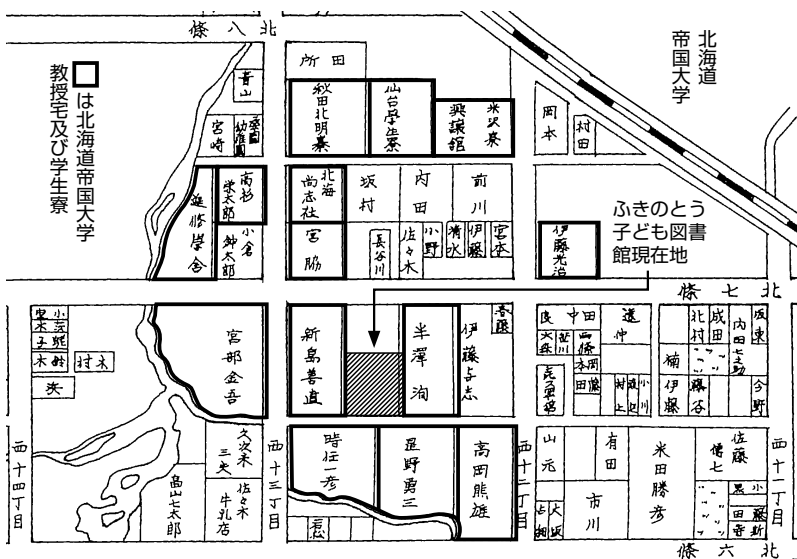
博士は、「納豆菌」の純粹培養法を開発し、納豆を「工業的」に生産できるようにした功労者ですが、かつて五千円札にもなったあの「新渡戸稲造」が札幌に設立した、「札幌遠友夜学校」の最後の校長（昭和十九年閉校）を勤めた方です。

札幌遠友夜学校は、明治大正期当時としては大変珍しい無月謝・男女共学の夜間学校で講師は大学教員や学生のボランティアでした。

新渡戸稲造は当文庫の創設者である小林静江がとりわけて敬愛し、手本としていた人物です。

当文庫と札幌遠友夜学校は、身心面と経済面の違いはあるものの、生活面の負担を多く背負う人々に注目し、ボランティア活動を通じて支援して行こうという共通の理念を持っています。

当図書館の地に居住していた私の父「高倉新一郎」も、札幌遠友夜学校に深く関わるなどで、新渡戸稲造の業績を顕彰した人間の一人なのです。当図書館が現在地にあることは、町内の文化的縁による面も強いのです。（高倉記）



昭和6年頃の桑園住宅案内図
桑園連合町内会「桑園誌」（平成17年）から作図

紙書籍と電子書籍

最近の新聞に『ぐりとぐら』のことが載っていました。一九六〇年代に出版された永遠のベストセラーです。当文庫にもシリーズで何冊もおいてあり、幅広い読者層がいて、みんな楽しんでます。そんな『ぐりとぐら』の本ですが、十年以上前から、「カラー印刷の上に、点字とともに絵柄も透明な樹脂インクで盛り上げて印刷された本」が発売されていたことが書かれていました。版元の紹介文には「見える人も、見えない人も一緒に楽しめる『ぐりとぐら』です。見えない大人が見える子どもに点字で読んでやることができ、子どもが見えない場合は、読んでもらいながら指で絵の盛り上がりを読み取ることができます。見える親子もぜひ、大きなたまごや、ふわふわのかすてら、ぐりとぐらの長いしっぽを、さわって楽しんでいただけるとうれしいです。——とあります。これは是非、当文庫にも備えておきたいと思いました。

当文庫には点字の本は若干数がありますが、目の不自由な方が自由に選ぶほどの数はありません。布の本についても、点字付きのものが僅かにありますが、満足いくほど揃っている訳でもありません。「すべての子どもたちに本の喜びを」ということを目指している割には、拡大写本は次々に作成しているものの、点字は未だ手をつけていない分野です。今後、そういった関連の本をどこまで備えることが出来るかどうか、ふきのとう文庫としてそうすべきかどうかなどを検討していくことも課題となっています。

布の本をはじめ、拡大写本も目の不自由な子ども

たちに少しでも本に親しんでもらおうと始めたもので、手で触って楽しむ布の本や、大きな文字で読むことが出来る弱視の子どもたちのための本など作ってきました。布に触って感触を楽しむことやレイアウトが変わっても一ページ、一ページ自分の手でめくって読む拡大写本の楽しさを考えたいです。

昨今の電子書籍という新たな本の形にも目が狂いますが、一ページ、一ページめくりながら楽しむ紙（布）書籍の重要性は、これからも変わらないと思います。

一方、電子書籍というものも気にはなります。札幌市の図書館には八千冊強の電子書籍があります。当文庫も時代の流れ的には、そちらも調査研究していきたいと思っています。現代の子どもたちはタブレットを自在に操っていくようで、電子書籍が望まれることも多くなるでしょう。

図書館に來館することなく、利用者のスマートフォンやタブレットなどで専用アプリケーションを起動し、貸出を希望する電子書籍を検索・指定



することにより、図書館のサーバーに保存されている電子書籍がインターネットを通じてスマートフォン等にダウンロードされ、閲覧が可能となる方式です。

これであれば、ここ数年のコロナウイルス感染の恐れをもちながら来館することもなくなり、体の不自由な方にも有効であると思います。返却の手続きも簡略化されます。利用者にとっては、いいことばかりだと思いますが、インターネットを使うツールを持つていなければなりませんし、扱うにはそれなりの知識が必要でしょう。さらに、このサービスを提供する図書館としては、越えなければならぬ様々なハードルがあります。まずは、一から電子書籍を購入しなければなりません。今までの図書館の蔵書に所有権はありますが、当然のように著作権はありません。ですから、電子書籍となれば、すべてあらためて購入する必要があります。しかも、その電子書籍を貸し出すということは著作権法の観点から見ると、「同図書館のサーバーに保存されている電子書籍がインターネットを通じてスマートフォン等にダウンロード」されることが、公衆送信権に係るそうです。公衆送信権については、図書館サービスに適用可能な権利制限規定はないので、電子書籍サービスの実施には、著作権者の許諾が必須となるようです。そうすると、電子書籍サービスの内容は、紙書籍を活用した図書館サービスと異なり、必要な著作権処理等を行って電子書籍サービスを図書館に提供する供給主との契約によってなされることとなります。

なかなか難しい話ですから、電子書籍を図書館で貸し出すということについてまだまだ研究していかねばならないのが現状です。近い将来と

は言わなくても、ふきのとう子ども図書館もそのことは考えていきたいと思っています。

布の本については、その性質上、電子書籍とはなりません。今後とも、新たな布の書籍として作成されていくことでしょう。また、拡大写本の電子書籍化については、単に文字を大きくすれば良いというわけでもなく、紙書籍で工夫をしている以上にレイアウト等の変更など様々な問題もあると思います。これらを考えつつ、意外に早い時期に電子書籍化が進められていくことになるかもしれないと思うのは、世間のIT化の流れが計れないせいでしょうか。

この原稿を書いている時に、『ぐりとぐら』の絵を描いていた山脇小百合さんがお亡くなりになったことが知らされました。ご冥福をお祈りいたします。

・・・・・・・・・・・・・・・・

◆ふきのとう文庫の

ボランティア活動について

開設五十年を越えたふきのとう文庫は、過去も現在もボランティアの皆さんによって活動が行われています。二〇二二年現在のボランティア数は子ども図書館 四十九人 布の本 四十九人 拡大写本十二人 催事担当 一人の計百十一人のほか、催事の度におはなし会、歌う会などに出演してくれる方々もいます。

子ども図書館では、日曜日・水曜日の午前九時三十分～午後四時の開館として、日々、本の貸し出しや返却されたものを本棚に仕舞う作業、来館者の本探しを手伝ったり、相談にのったりする仕

事を行っています。また、新たに本を購入する際の選本係や購入・寄贈などで増えてきた本をデータベースに落とし込んで整理するパソコン係も図書係で分担して行っています。日曜班から水曜班まであり、その中でも午前、午後と勤務が分れていて、通して活動している人もいます。個人個人の都合で、出勤できない日をカバーし合いながらの活動です。曜日によっては、図書室内でおはなし会などのイベントを催したりもしています。基本的な仕事は同じなのですが、曜日によっての幅はあります。ですから、横の連絡・繋がりを持つために、全体会議や各曜日のリーダー会議を行うこともあります。

布の本のボランティアには六つのグループがあります。それぞれ、札幌市が昭和の時代に行った布の本の作成教室（研修会）の卒業生が集まって作られたグループで、多いところは二十人弱、少ないところでは三人のグループで活動しています。布の本の作成はほぼ自宅で個々で行っていますが、週に一度程度、みんなが集まってふきのとう文庫二階の作業室に集まって完成させることを一緒に行います。この部屋には、布の本の設計図ともいえる型紙や原材料になるキャンバス地、フェルト地、その他の材料などが使いやすく収納されています。

細かな作業を経て、国内でもトップクラスの出来映えの布の本を作っており、日本全国の公的な図書館から注文を受けています。これらは、原材料と僅かな経費で安価に頒布しています。しかし、それが当文庫の収入源になっています。その額は文庫の総収入の四分の一ほどにもなり、賛助会費、補助金などを除くと唯一の事業収入となっています。ボランティアの皆さんの無償の労力を活動費

に変えているということです。

拡大写本は、弱視の子どもたちのための本です。点字本とちがい、僅かに見える視力を持つ子どもたちのための本で、通常の絵本のレイアウトなどを工夫して、一ページに描かれているものを数ページに拡大している本です。単なる引き延ばしたコピーと全く違い、見やすさや製本にも気をつけなければなりません。また、弱視特有の色に対する見え方の違いも考えて作ります。

昨年度は百二十八冊の本を作成し、そのうち五十六冊を視覚支援学校等に寄贈しています。また、全国に向けて拡大写本の貸し出しも行っています。拡大写本については、すべての経費を当文庫で受け持っていますので、その費用を捻出することが大変です。一部、その作成経費を助成してくれる社会奉仕を目的としている団体があり、長年、そこに頼っている部分もあります。有り難いことです。

この拡大写本のボランティアは少数精鋭で、あまり人数に変動はありません。公的機関では、拡大写本製作のボランティア講座など行っているようですが、三ヶ月たらずの講座ではなかなか熟達するのは難しいようです。当文庫でも、今後、この関係のボランティアの養成も必要になってくると思います。



水曜日のお話し会

図書係 水曜班 長沢 洋子

お話し会は、小学校で読み聞かせ経験のあるボランティアメンバーの提案で、二〇一六年七月二十六日に毎週水曜日午前十一時より、絵本二冊と紙芝居一点の読み聞かせからスタートしました。所用時間は十分程度で、たくさん子ども達、保護者、保育関係者が参加してくれていました。継続は力なりをモットーに二〇二〇年二月まで続いてきましたが、二月末から二〇二一年十月末まで「コロナ禍」のため図書館が休館となり残念ながら水曜日のお話し会も活動が中止となりました。



その後、二〇二一年十月の図書館再開に伴い、十一月から「お話し会」を再開することになりました。来てくれる人がいるのか一抹の不安がよぎりましたが、ポスターやチラシでのPR効果があつたようで三組の親子の方が来てくれました。しかし再開したものの読み聞かせメンバーが減り継続できるか心配しましたが、二〇二二年七月に新たなメンバーが加わるようになりました。

水曜日の朝は、テーブルに暗幕を掛け椅子をセッティングします。お話し会で人気者の指人形『ふきえもん』が「みなさん、こんにちは」と登場すると、子ども達は「何が始まるのかな」と興味津々の表情で集中します。親子で手遊びを楽しみ早速開始です。マスク着用のため、読み手は出来るだけお腹からしつかり声を出すよう努力しています。表情までは伝える事が出来ない難しさを痛感しています。小さな赤ちゃんはお母さんに抱っこされて目や耳を傾け、椅子に座っている子ども達が集中して見てくれると読む側も力が入ります。時には、子ども達が落ち着かなくなってしまう事もありますが、お話しの内容や読み方がどうだったかな？と私達も振り返る機会となり日々勉強です。

ほんのささやかな時間ですが、お話しに触れる楽しみや喜びをたくさん体験してもらいたいと願っています。

絵本やお話しは親子のコミュニケーションや子どもの成長に大切な役割をもちます。是非そのきっかけ作りになることができますよう活動していきたいと思っています。



〈読み聞かせメンバーの声〉

★老眼で絵本の活字が良く見えない、手が乾燥して（干からびて？）頁がうまくめくれない、そんな苦労が絶えないお年頃。それでも子ども達が喜んでくれると嬉しいし、楽しいですね。やっぱり。

★児童会館で絵本の読み聞かせをしています。ふきのとう文庫のお話し会に集まってくれている小さな子ども達も、きつと絵本好きの子に育ってくれるといい、毎回楽しみに読んでいます。

★木のぬくもりとたくさんさんの絵本の中で子ども達と繰り広げられるお話し会。多くの時間では無いけれど、そこにはホッカリとした温かな時間が流れていると感じています。子ども達の心に何かが届くよう笑顔で頑張ります。

2022年7月以降賛助会費納入一覧

個人(26名)

東 由美子 伊田 忍 岩本 康治
梅沢 愛美 蛭田 佑一 大島ちづ子
小野 祐子 折井佳以子 加地利代子
熊谷 勝宏 佐々木勝敏 東海林和代
菅原三重子 田辺 敏子 徳尾 雪子
富永ナル子 永井 信夫 成田 幸子
濱崎 京子 林 規子 原田 宏子
森永美恵子 八島 昭雄 吉村 環
小笠原良次 平岡佳代子

団体(2団体)

あつぶる

岩見沢友の会

2022年7月以降寄附金納入一覧

個人(7名)

古賀 恭子 島 宏彰 藤田 宮子
松井 紀子 横山 幸子 杉下 清次
飯村 俊幸

団体(1団体)

生活クラブ生活協同組合

2022年7月以降寄贈一覧

7月10日 童心社

児童書 1冊

賛助費、寄附、寄贈ご芳名 支援ありがとうございました。

7月20日 向井地康恵

書籍 4冊

8月1日 学研プラス

児童書 1冊

8月2日 講談社ビーシー

児童書 1冊

8月8日 偕成社

絵本 1冊

川口 能子

絵本 23冊

8月24日 松村千恵子

絵本他多数

8月31日 佐藤 興子

絵本 2冊

9月4日 和野 徳子

書籍 5冊

9月11日 童心社

絵本 6冊

9月21日 佐々木敦子

絵本 1冊

9月30日 偕成社

絵本 2冊

9月25日 藤井 愛子

児童書 1冊

10月10日 学研プラス

漫画多数

10月11日 川口 能子

児童書 2冊

10月16日 童心社

絵本・児童書他多数

10月26日 大平 実男

書籍 2冊

行事一覧

7月10日 うたう会

7月17日 おはなし会

7月19日 運営会議

7月24日 ふくわじゅつ

8月8日～17日 明日に向けての展示会

8月21日 おはなし会

8月22日 運営会議

8月28日 井上美豊子と楽しもう

9月4日 ヤチシンコス演奏会

9月6日 横浜鶴見大学 見学視察 5名

9月11日 うたう会

9月18日 おはなし会

9月20日 運営会議

9月25日 人形劇団「ひよっこ」

10月16日 おはなし会

10月23日 手作り遊び

10月25日 運営会議

10月30日 評議員会

10月31日 布の本グループ リーダー会議



—— 布の本テキスト・材料セット価格表 ——

材料セットには作り方説明書を同封しています。

| テキスト No | 布の本 | テキスト | 材 料 セット | テキスト No | 布の本 | テキスト | 材 料 セット | テキスト No | 布の本 | テキスト | 材 料 セット |
|------------|----------|------|------------|------------|----------|------|------------|------------|-------------|------|------------|
| 11 | かくれんぼだあれ | 200円 | 販売終了 | 15 | おかあさん | 200円 | 3030円 | | どんぐりころころ | なし | 4360円 |
| 12 | MY BOOK | 200円 | 3320円 | | どうぶつ | | 1820円 | | おむすびころりん | なし | 5560円 |
| | このいろなあに | | 3850円 | 16 | まる | 200円 | 3320円 | 遊具 | ジャンケンサイコロ | なし | 600円 |
| 13 | のりもの | 200円 | 1620円 | | むし | | 2230円 | | やさいセット(8種) | なし | 600円 |
| | だれのうち | | 3320円 | 17 | ちいさいおおきい | 200円 | 3030円 | 遊具 | くだものセット(7種) | なし | 500円 |
| 14 | Greeting | 200円 | 3030円 | | さかな | | 1720円 | | | | |
| | おやつ | | 1720円 | | わっ! | なし | 1720円 | | | | |



だいています。その使途としては、絵本購入や布の本の材料費、拡大写本の印刷費及び経費まで多岐にわたります。

毎年、秋にはその街頭募金のお手伝いをしていいますが、今年は十月六日に布グループ「さくら」の三人が時計台前に立ち募金を呼びかけました。



赤い羽根共同募金・

街頭募金に参加

当文庫では、昭和の時代から赤い羽根共同募金の助成金により運営費の一部を賄っています。現在は総予算の二割弱がその助成金で、数十年、継続していた

三年ぶりに秋の評議員会を開くことが出来た。今年度前半の事業報告、財政収支報告などがなされた。評議員とは、行政組織でいうところの議員の役割を果たしているかどうかを確認したり、助言したりする役割である。今回も活動費を補う策として貴重な意見を頂いた。

ここ数号文庫だよりは、活動報告というよりは、それを下支えする要素の不安定さばかりを記事にしていたように思える。何か明るい話題にしてくださいという話も内部から聞こえてきた。

だからというのではないが、今号は巻頭から面白い話を載せている。S理事は、読み聞かせも行っている人。代表理事には、この文庫が位置する街並みの話と、少しは今までの違ったカラーになったのではないか。

あとがき

編集 公益財団法人ふきのとう文庫 代表理事 高倉 嗣 昌

〒060-0006 札幌市中央区北 6 条西12丁目 8

☎ 011-222-4839 FAX 011-222-4800

http://www.fukinotou.org

E-mail:fukinotoubunko@ceres.ocn.ne.jp

令和 4 年11月10日 発行

毎月10日発行一部100円(維持会費に含む)

昭和48年 1 月13日 第 3 種郵便物承認

HSK 通巻608号

発行人 北海道障害者団体定期刊行物協会

細 川 久美子

郵便振替 = 02720-3-2300 銀行口座 = 北洋銀行本店営業部普通預金 0035764 公益財団法人ふきのとう文庫

この機関誌は、“北海道共同募金会の配分”により刊行しています。

維持会員・寄付者のみなさん、ありがとうございました。